

辺野古全協 大阪集会

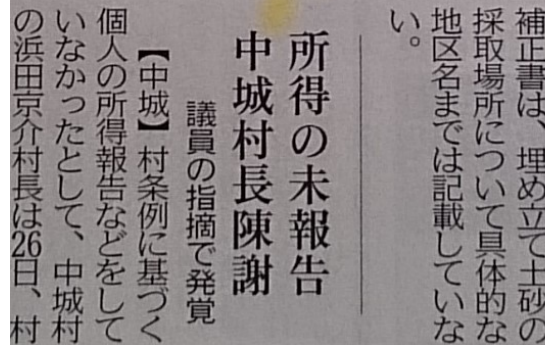
2018年12月2日・PLP会館

辺野古土砂搬出反対運動の始まり

「どの故郷にも戦争に使う土は
一粒もない」

2013年2013年3月～

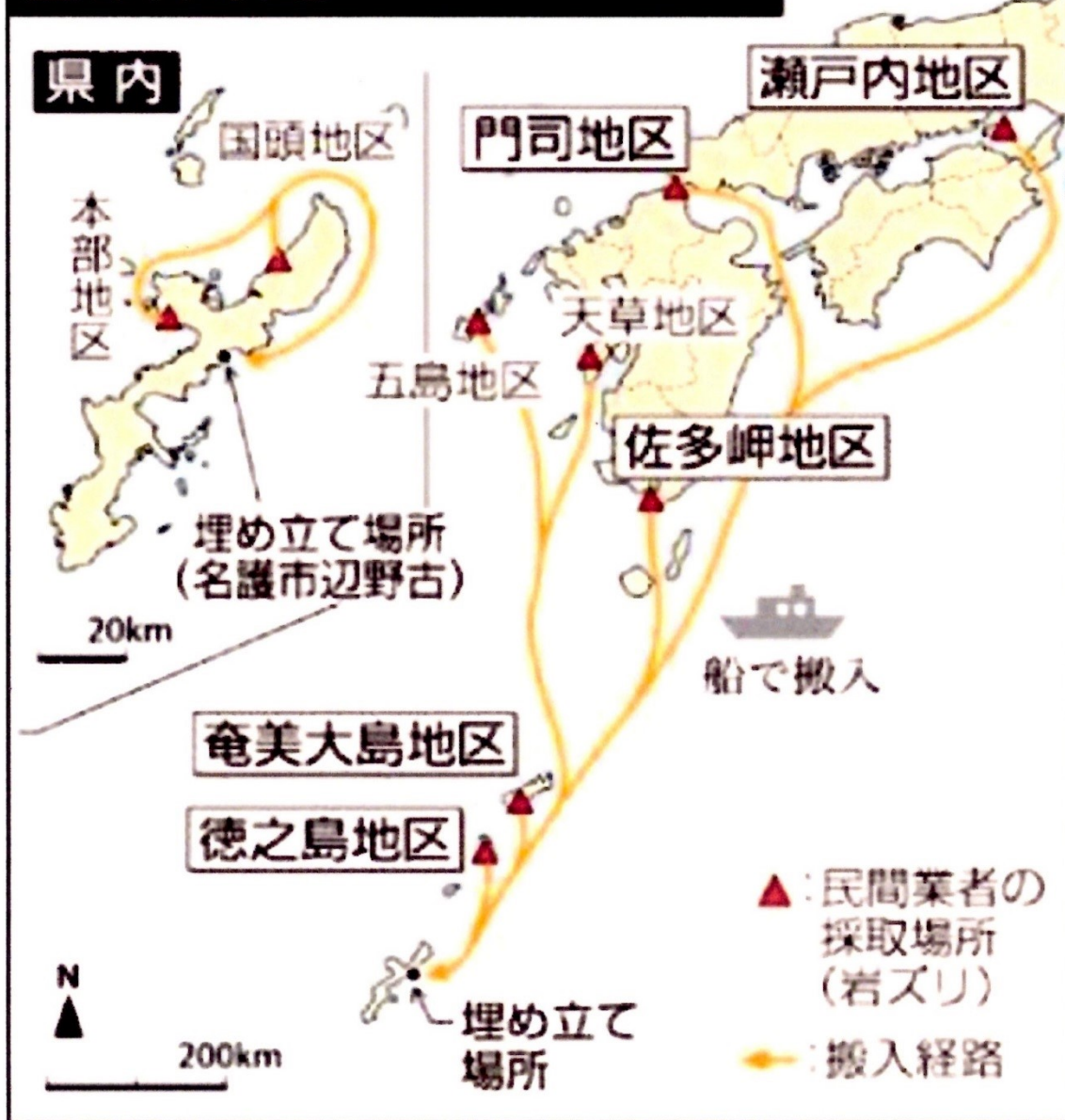
県外では
瀬戸内・門司・五島・天草
大隅・奄美・徳之島・・・



土砂調達1300億円相当

普天間飛行場移設に伴う辺野古沿岸部の埋め立てに必要な土砂の購入と運搬に、少なくとも1300億円近くの費用を検討していたことが26日、沖縄防衛局の内部資料で明らかになった。資料によると、県内での土砂の採取場所として国頭の2地区と、今帰仁、本部地区、宜野座、名護市の大浦、伊平屋・伊是名の計7地区を検討していた。検討内容が、22日に提出された埋め立て申請書に反映されているかについては流動的だ。

全国協議会に参加見込みの 土砂採取地



岩ズリ 採取場所別 ストック量

地区名	万m3
本部(沖縄)	620
国頭(沖縄)	50
徳之島	10
奄美大島3	530
佐多岬	70
天草	300
五島	150
門司5	740
瀬戸内(小豆島)	30
合計	2500

沖縄県外 1644万m3
73%

2013年12月24日

環瀬戸内海会議
沖縄県に要請文

「瀬戸内海から
辺野古に土砂を
送ることに反対」



2015年5月31日
奄美大島で

「辺野古土砂搬出反対
全国連絡協議会」発足
5県7団体（京都・兵庫・
岡山・福岡・鹿児島）

2016年・4月**12県18団体**
（協力団体とで現在20団体）
（香川・広島・山口・熊本・
長崎・三重・沖縄）

58
59
せ
59
56
56

琉球新報

THE RYUKYU SHIMPO 第38209号

2015年(平成27年)
6月1日 月曜日
[旧4月15日・赤口]
発行所 琉球新報社
〒900-8525那覇市天久905番地
電話 098(865)5111
©琉球新報社2015年



「辺野古土砂搬出反対」全国連絡協議会を設立し、握手をする（左から）大津幸夫共同代表、向井宏顧問、阿部悦子共同代表＝31日、鹿児島県奄美市名瀬の奄美ポートタワーホテル

辺野古埋め立て 全国7組織、連絡協設立

【奄美で金良孝矢】新基地建設に伴う、名護市辺野古の埋め立て用土砂が採取される予定になっている地域の環境団体など7組織で構成する「辺野古土砂搬出反対」全国連絡協議会（阿部悦子、大津幸夫共同代表）が31日、鹿児島県奄美市で設立された。協議会は土砂搬出について「沖縄と日本各地の自然破壊、軍事基地の加担を強制する『二重破壊だ』と批判し、政府に新基地建設と土砂搬出計画の撤回を求める決議文を採択した。」
(26、27面に関連、23面に決議全文)

土砂搬出「撤回を」

同協議会の阿部共同代表（環境戸内海会議共同代表）はあいさつで「ふるさとから辺野古に土砂を持つていくことは、私たちが加害者になることだ。搬出元で座り込むなど活動したい」と意気込みを語った。大津共同代表（自然と文化を守る奄美会議共同代表）は「運動をさらに広げる出発点となる」と結成の意義を語った。

決議文では「離島、農漁村は高度成長下で資材供給を担われ、破壊と公害に苦しんできた」と指摘。

普天間飛行場の辺野古移設	
作業を停止	49.6% (47.8%)
作業を進める	37.2% (38.9%)

※かつこ内は3月28、29両日実施の調査結果。合計は100%にならない。

辺野古

「ようやく乱開発に歯止めがかかり、地域の主体的な振興の取り組みが始まりつつある」

全共

奄美大島（市） 住用湾のトビラ島 上流で採石 「自然と文化を守る奄美会議」が運動のけん引役！



トビラ島が右に

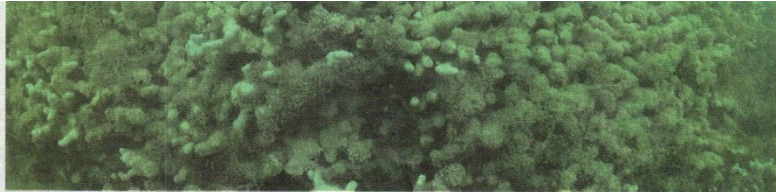


4キロ上流には国内2位のマングローブ林

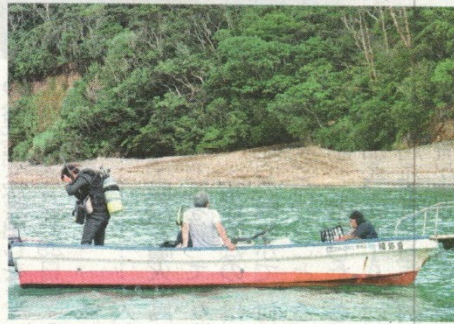


奄美市住用町市

採石により住用湾の珊瑚 死滅(2015年5月29日調査)



泥をかぶって大半が死滅したハマサンゴ＝29日、奄美市住用町市沖の海底(自然と文化を守る奄美会議提供)



市沖の海域を調べるダイバー。背後の海岸には採石場から流れた土砂がたまっている。29日、奄美市住用町市

奄美市住用町市

▽砂防堤の設置▽海岸にたまった土砂の撤去▽海底のヘドロの回収を要望している。調査結果について田川一郎(53)は「予想以上に悪化してお

る。対し、

り、ただただショック。1日も早い解決に全力を挙げる」と話した。県は4月、採石業者

の胸中部砕石に対して採石法に基づく緊急措置命令を出した。奄美会議の大津共同代表は「今後の調査で深刻な被害が明らかになれば事業を継続するのは言語道断。県議会にも実情を訴えたい」と語った。

サンゴの死滅被害確認

採石場の土砂が原因か

自然保護団体などが調査

奄美市住用町市

奄美市住用町市集落の採石場から大量の土砂が流出し、環境の悪化が懸念されている中、自然と文化を守る奄美会議(大津幸夫、蘭博明共同代表)は29日、集落沖の海底で一部のサンゴが死滅している被害を確認した。潜水調査を行った向井宏・北海道大学名誉教授(海の生き物を守る会代表)は海底にたまったヘドロが原因になっていると指摘。「生き物の姿が見えない死の海の世界。このままでは早期回復は見込めない」と警告し、早急な対策を求めた。

潜水調査は水深1メートル5センチの海域で行った。視界は1メートル前後。ヘドロが25センチ30センチまった場所もあり、一部は無酸素状態。岩場に粘液質の泥がついた状態で新しい生物は定着しづらい。土砂の流入を放置したら被害は広がってしまう。早急

に止める必要がある(向井氏)。日本自然保護協会の安部真理子さんによると、調査で確認したハマサンゴやキクメイシは環境の悪化に強いとされる種類。ただ直径約30センチの小ぶりなものが目立った。海中が濁った影響で「ミドリイ



泥をかぶって大半が死滅したハマサンゴ＝29日、奄美市住用町市沖の海底(自然と文化を守る奄美会議提供)

シのような環境の変化に敏感なサンゴは生きられないと懸念した。市集落は県に対し、

想以上に悪化してお

る。

▽砂防堤の設置▽海岸にたまった土砂の撤去▽海底のヘドロの回収を要望している。調査結果について田川一郎(53)は「予想以上に悪化してお







奄美大島市集落の採石場

市集落から町への1本道、大雨で土砂が道を塞ぎ集落は孤立





自然と文化を守る奄美会議 鹿児島県議会に陳情

採石6地点全てで、ハイイロゴケグモ見つかる

2016年(平成28年) 7月10日 日曜

外来種移出禁止条例を

奄美・市民団体 鹿児島県議会に陳情へ

鹿児島県を拠点とする自然と文化を守る奄美会議(大津幸夫会長)が、8月中旬にも特定外来生物の県外持ち出しを規制する条例

制定を求める陳情書を鹿児島県議会(池畑憲一議長)に提出することが分かった。沖縄県が今年3月、那覇空港第2滑走路建設のた

めの埋め立て石材を採取している奄美大島の採石場周辺を調査した際、6地点全てで特定外来生物のハイイロゴケグモが見つかった

め。奄美大島の石材や土砂は米軍普天間飛行場の移設に伴う辺野古新基地建設の埋め立て工事にも使用されるところとみられており、9月の鹿児島県議会で採択されれば新基地建設工事の進捗に影響しそうだ。

陳情書は、昨年11月に県が制定した県内に持ち込まれる土砂や石材に付着した特定外来生物の移入を規制する土砂条例について触

れ、鹿児島県は搬出する側として「特定外来生物の移出を禁止する鹿児島県条例」の制定の必要性を訴える見通し。また、奄美大島からの土砂搬出を直ちに中止するよう訴える。

同会議の大津会長は「土砂や石材を搬入・搬出する両県で厳重にやれば、最悪の事態を回避できる」と指摘。さらに、現行の土砂条例については「法的拘束力がなく不十分」であるため、より実効性のあるものへと改定すべきとの見解を示した。

沖縄平和市民連絡会の北上田毅さんは条例案について、県外から1700万立方メートルの土砂搬入が見込まれる辺野古新基地建設工事にも応用できると指摘。「土砂条例だけでは県外での管

理体制などが把握できないため双方で監視することは非常に効率的だ」と述べた。



外来種規制の 陳情を不採択

鹿児島県議会環境厚生委

市民団体「自然と文化を守る奄美会議」（大津幸夫会長）が鹿児島県議会（池畑憲一議長）に提出した、特定外来生物の県外持ち出しを規制する条例制定を求める陳情書について、同県

議会環境厚生委員会（井本章三委員長）で審議され、反対多数で不採択となったことが7日、分かった。奄美大島の石材や土砂は米軍普天間飛行場の移設に伴う辺野古新基地建設の埋め立て工事にも使用されるとみられており、審議の行方は県内外から注目されていた。

世界遺産候補の「奄美・琉球」

18年登録へ 環境相意欲

山本公一環境相は7日の記者会見で、希少動物が生息する亜熱帯照葉樹林が広がる世界自然遺産候補の「奄美・琉球」（鹿児島、沖縄）について、2018年の登録を目指す考えを強調した。

「アマミノクロウサギなどの希

少種保護と（生態系を脅かす）マングースなど外来種対策を引き続き進め、遺産の価値を分かりやすく説明したい」と意欲を表明。遺産の対象区域を盛り込んだ推薦書を、18年登録に向けた期限である来年2月1日までに、国連教育科学文化機関（ユネスコ）に提出する方針を示した。

2016年10月8日記事

左・沖縄タイムス
右・琉球新報



岩ズリ(奄美)。小石、砂や泥の混
じったもの。これに外来生物が含ま
れていたら？ 16.11.1
防衛省は答弁できず

特定外来生物とは(環境省ホームページより)

- ・外来生物法(特定外来生物による生態系等の係る被害の防止に関する法律)により、生態系に被害を及ぼすものとして指定された生物(148種・7月時点)
- ・外来生物法では、特定外来生物に指定された生物を飼育・栽培・保管・運搬・販売・譲渡・輸入・野外に放つなどを原則禁止し、違反すると罰則規定があります。



セアカゴケグモ

ヒメグモ科の有毒の小型クモの一種。和名は「背中の赤いゴケグモ」の意味。1995年に大阪府で発見されて以降、広域で見つかった。



ハイイロゴケグモ

ヒメグモ科の毒をもつ小さなクモの一種。

ゴケグモ

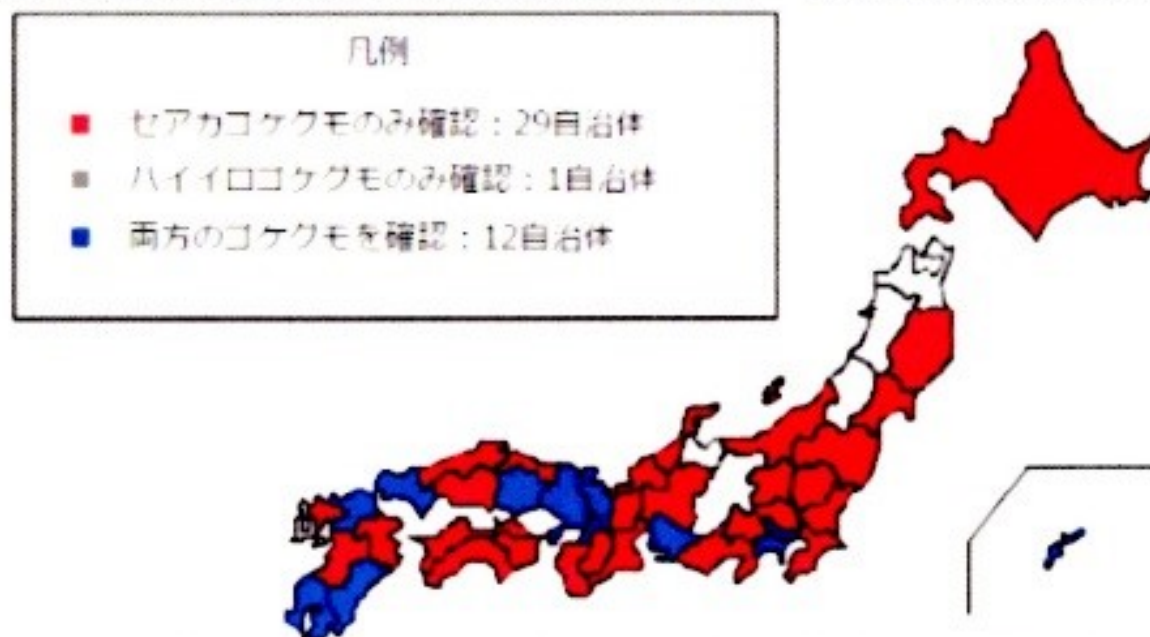
土砂搬出 全地域に 生息

ゴケグモとは

ゴケグモ類は、ゴケグモ属 (Latrodectus) というグループに分類され、約31種が知られている。熱帯地方を中心に世界中に分布する仲間である。ゴケグモの名前の由来に関して、「毒性が強いため噛まれた時の死亡率が高く、奥さんが後家になる」という俗説が知られている。実際には、ゴケグモ類の英名 "widow spider" そのままの和訳で、ゴケグモ類はオスの体がメスに比べて非常に小さく、交尾後にオスがメスに共食いされることに由来する。ただし、共食いの頻度などは種類や条件により異なる。

日本での分布

1995年11月に日本で最初に大阪府高石市で発見された。以降日本各地へ分布域を広げた。2015年9月時点で42自治体で確認されており、一部では定着も確認されている。



出典：[セアカゴケグモ・ハイイロゴケグモにご注意ください！](#)（環境省）

懸念されるアルゼンチンアリなどの外来種持ち出し

日本全国に於ける、アルゼンチンアリの分布

生息地域(2010年現在)

南米中部のパラナ川流域原産。

競争力、**攻撃性**が高い。

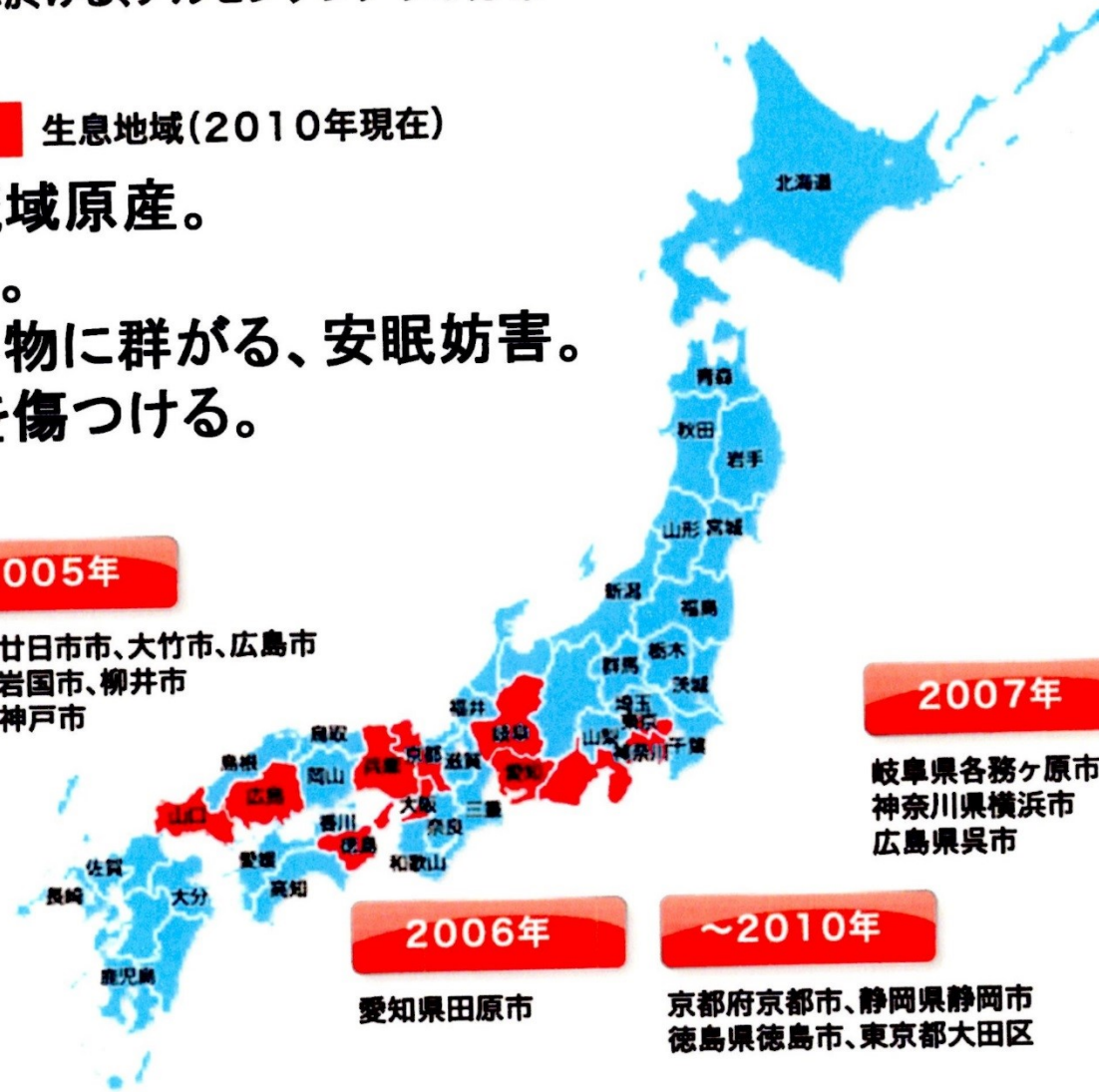
家屋侵入。台所の食べ物に群がる、安眠妨害。

農作物の芽やつぼみを傷つける。



～2005年

広島県廿日市市、大竹市、広島市
山口県岩国市、柳井市
兵庫県神戸市



2007年

岐阜県各務ヶ原市
神奈川県横浜市
広島県呉市

2006年

愛知県田原市

～2010年

京都府京都市、静岡県静岡市
徳島県徳島市、東京都大田区

オオキンケイギク

●なぜ外来生物に指定されたか？
北米原産、強健で冬のグランドカバー
効果が高く、緑化のために道路の法面
等にご利用されたり、ポット苗としても生産
流通されていました。



しかし、あまりの強靱さのために一度定着すると、在来の野草を
駆逐し、周りの景観を一変させてしまう性質をもっています。
人の手でこれ以上広げないようにするため、環境省では、
平成18年2月、「特定外来生物」に指定しました。（環境省ホームページ）

「沖縄県土砂条例」とは

●「沖縄県公有水面埋立事業における埋立用材に係る外来生物の進入禁止に関する条例」15、11、1日施行

- ・搬入の届け出・・・**予定の90日前までに**（特定外来生物有無の確認⇒混入が判明したら、防除対策を県に届け出する）
- ・立入調査、**中止勧告**・・・県は立入調査実施（付着、混入があれば、防除の実施、搬入中止若しくは使用中止を勧告することが出来る）**勧告に終わらせず、「中止命令」に！**

実効性はあるのか？（防衛局は、高熱処理で可能と）

福岡県北九州市・門司区

福岡県北九州市 門司区採石場





「辺野古土砂搬出反対北九州連絡会」精力的な活動



熊本県

天草 御所浦

御所浦は天草2市1町の南(裏側にあり、採石場は水俣市から眺望される)

1977年から、水俣湾に水銀汚染された土砂や魚などを封じ込めるために、御所浦の土砂が使われた。

10月1,2日総会



2015年7月20日 熊本県連絡会連絡協議会発足 天草9条の会から、県連絡協議会へ



天草・懸橋



天草で、160人が集い、第3回総会記念集会

2016年、10月1日・2日





恐竜の化石をもっていけないで!!

辺野古土砂搬出反対 熊本県連絡協議会

「白亜紀の壁」・・・1億年前の化石が







150m × 100m・30mの穴に浚渫ヘドロや鉄鋼スラグ





一億年前の化石が眠る(子供たちの学習の場)



恐竜の島一周クルージング(御所浦) 「白亜紀資料館」も

恐竜の歯や足跡の化石が展示
されている。巨大なアンモナイトの
化石も多い



熊本県天草諸島 離島の町 御所浦

恐竜の島 入行こう！

化石と出会う

夏の島旅！！

化石を発見！

化石採集体験付き

恐竜の島 一周 クルージング

ご予約・お問合せ 御所浦 物産館 0969-67-1234

午前8時～午後6時

ガイドと一緒に貴重な恐竜化石の発見地めぐりと化石採集ができるスペシャルクルーズ

期間 2015 7/18-9/30 間の 土・日・祝日

出航時間 午前 9:30発 各便11名まで
午後 1:00発 約2時間(御所浦)

※平日も3名以上の事前申込がある場合は平日便を出航



獣脚類(肉食恐竜)の恐竜足跡化石 (実物化石)

発見地：熊本県天草市御所浦町井天島
地 層：御所浦層群唐木崎層
時 代：中生代白亜紀後期初頭(約9800万年前)

1997(平成9)年5月に、九州初となる恐竜の足跡化石が発見されました。それが、この化石です。
発見場所は、安岩と砂岩の繰り返す地層からなり、主に河川やその氾濫(はらん)によってできたと考えられます。ここで発見された足跡化石は、川べりの泥の上を歩いたときに残されたもので、その後、川の流れの变化によって細い砂がその上を覆い、埋められたと推定されます。
4本指のうち地面に着く3本の指が残され、その指が長く伸びることから、肉食恐竜(獣脚類)の足跡であると考えられます。また、残された右側の指先が真ん中のものから離れていることや、足跡やそれの指跡の左側が、右側より比較的にはっきりと残されていることから、右足の足跡と推定されます。この足跡化石から推定される肉食恐竜の全長は5mほどで、中型のものです。

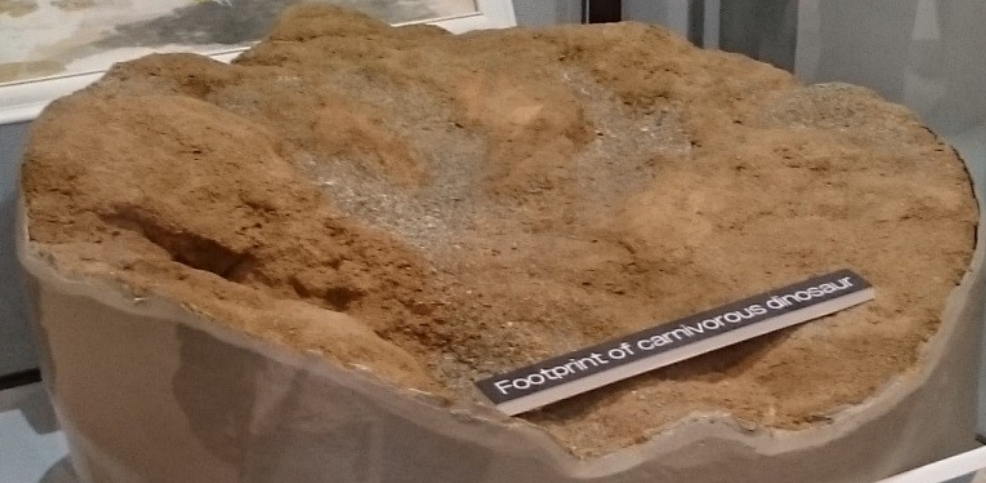
2008年5月に、近隣の海食から保護するため発掘し、展示しました。発見地では、数個を復元し、発掘前の化石のあった様子を見学できるように、複製(レプリカ)を設置しています。

38cm

真土から見た獣脚類の足跡化石

恐竜の島御所浦





Footprint of carnivorous dinosaur

獣脚類(肉食恐竜)の恐竜足跡化石 (実物化石)

発見地：熊本県天草市御所浦町井天島
地層：御所浦層群唐木崎層
時代：中生代白垩紀後期初頭約9800万年前

1997(平成9)年5月に、九州初となる恐竜の足跡化石が発見されました。それが、この化石です。発見場所は、天草と砂州の狭い隙間からなり、主に河川やその氾濫による足跡化石は、川の流れの方向に流れて残るもので、その後、川の流れがその上を覆い、埋められたと推定されています。



38cm





御所浦島の人口80%の反対署名提出





御所浦の運動の成果（辺野古土砂搬出反対熊本県連絡会）

・町を挙げての土砂採取反対運動

島民（町民）の8割の反対署名の提出

県に対して度重ねての公開質問状提出

→採石更新申請反対運動の展開

今年4月・・・（有）山口海運・御所浦町づくり協議会・
熊本県・天草市の4者により、採石場内の穴の
埋戻しを採石場内の土砂を使って行うことに決定

小豆島

南側主な観光地
24の瞳の像
映画村
オリーブ公園など

東側一帯採石場
(人が訪れず、航路
も沖を通らない)

北側には
「残念石公園」
大阪城への積出港



小豆島東海岸灘山。 かつての山がなくなり、今は道路に



「平和の島」・瀬戸内海国立公園で





「小豆島環境と健康を考える会」(10月に入会)

1990年代から小豆島の採石による環境破壊問題に取り組む



辺野古全協沖縄県へ働きかけ

「生物多様性・土砂条例改正」

2017年7月 ・学習会（湯浅一郎・北上田毅両講師による）

県議会与党会派

島尻島ぐるみ会議・島ぐるみ会議名護

2018年5月・7月

沖縄県に要請（副知事と面談）、与党会派と面談・要請

2018年12月

沖縄県議会に土砂条例強化の陳情書各団体提出

2017年7月

生物多様性国家戦略
と
生物多様性地域戦略
により、
搬出6県と沖縄県が
つながることを目標に！

2017年(平成29年)7月14日 金曜日

沖縄新聞

土砂規制強化要請へ

辺野古反対協 搬出元6県に



「辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会」の阿部悦子共同代表らは13日、県庁記

者クラブで会見し、名護市辺野古の新基地建設に伴う埋め立て土砂の搬出候補地になっている6県(福岡、長崎、熊本、鹿児島、山口、香川)に対し、沖縄県との連携を働き掛ける方針を発表した。沖縄県が「県外土砂搬出反対協議会」のメンバーら13日、県庁記者クラブ

砂搬入規制条例に基づき、採石地で特定外来生物の有無を調査する場合などに、各県職員が現地への派遣など積極的な協力を求める。既に4県で各地の市民団体が要請活動を始め、長崎からは「沖縄県の要請があれば協力することになる」などと回答を得たという。各県に協力を求めるのは、沖縄県が採石地に立ち入って外来生物の有無を調

査するケース、外来生物の発見後に防除対策が確実になされたか確認する時などを想定。各県との広域連携の仕組みについても可能性を探り、チェック体制を強化したいとしている。

同協議会は、埋め立て土砂・資材の大量搬出が見込まれる西日本の団体を中心に構成。同協議会の湯浅一郎顧問は「6県とも生物多様性地域戦略を策定している。それを推進する立場で、沖縄県の条例に協力すべきだ」と指摘。搬出が見込まれる採石地の約7割が環境省の指定する「生物多様性重要海域」に面するとし「新基地建設は辺野古に加え、搬出地の環境も破壊する」と訴えた。

阿部共同代表は「採石によって私たちの古里の山は崩され、海は汚れる。さらに辺野古の海を埋めれば、国の生物多様性国家戦略に真っ向から反す」と指摘した。

沖縄県議会で、与党会派13県議が出席



生物多様性国家戦略とは

- 1992年6月 リオデジャネイロの地球サミット
(人類はこのまま生物多様性を破壊していくことは自らも含めて破滅への道であることを自覚し始める)
- 1993年5月 「生物多様性条約」発効(194か国とEU及びパレスチナ締結。米国は未締結)
- 2008年6月 「生物多様性基本法」施行
- 2012年9月 「生物多様性国家戦略」閣議決定
- 2010年10月 生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)
世界目標「生物多様性戦略2011－2020愛知目標」採択
→「生物多様性の観点から重要度の高い海域」指定

生物多様性国家戦略に沿って防衛省は外来種持込み防止義務があり、各県も「地域戦略」に沿って持ち出し防止責務

5月27日からの3日間、沖縄市で第5回総会・集会が！

連絡・お問合せ先：
●本部町島ぐるみ会議事務局
(阿波根 美奈子 090-9783-5926)
●辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会事務局
(松本 宣崇 090-3638-0187)

（沖縄防衛局資料より作成）

瀬戸内地区
門司地区
天草地区
五島地区
佐多岬地区
奄美大島地区
徳之島地区

2018年5月27日(日)
12時30分～
会場：沖縄市民会館 中ホール
(沖縄市八重島1丁目1-1 胡屋バス停下車、徒歩15分)

辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会
第5回総会記念

**その土砂ストップ！
沖縄集会**

— 命の海に基地はいらない —

県外から約50人が、
沖縄県内からも230人
が参加された。
県外からの土砂をストッ
プさせるための議論が
交わされた。

搬出各県の代表らが県庁ロビーにて集合





5月29日
副知事と面談

辺野古全協各団体の
代表らが謝花副知事に
会い、
沖縄県と搬出各県との
連携、土砂条例の
強化について要請・
面談をした

県、調査専門員増員へ

辺野古新基地
外来生物対策 土砂反対協に方針

米軍普天間飛行場の移設に伴う名護市辺野古の新基地建設に関し、謝花喜一郎副知事は29日、他県からの土砂投入前に特定外来生物の侵入がないか調査する専門委員の数を7人から12人に増員する方針を明らかにした。土砂採取予定地の市民団体でつくる辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会の阿部悦子共同代表らが、土砂を搬出する自治体との協力関係づくりを要請した席で述べた。



謝花喜一郎副知事（右）に要請文を手渡す辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会の阿部悦子共同代表（29日、県庁）

専門委員は、現地の採石地の調査などを実施する。特定外来生物を規制する県土砂条例の初の適用事例となった那覇空港第2滑走路の埋め立てでは、調査地点全てで特定外来生物が見つかり、さらに土砂の量が多い辺野古で人員が足りるか疑問の声が上がっていた。協議会の湯浅一郎顧問は「土砂を搬出する県は自分の県から外来生物を持ち出されるのを食い止めようと

している。協力関係を作っ
てほしい」と求めた。謝花副
知事は「他県にも協力依頼
が必要だ」と応じた。協議
会は、土砂条例に罰則規定
を設けることも求めた。
協議会は要請後会見し、
これまでに土砂搬出元の地
域を中心に工事中止を求め
る署名11万7310筆を国
に提出したが、土砂投入が
迫っているため、全国に対
象を広げた緊急の署名活動
を始める方針を説明した。

7月2日、沖縄県議会与党会派と面談



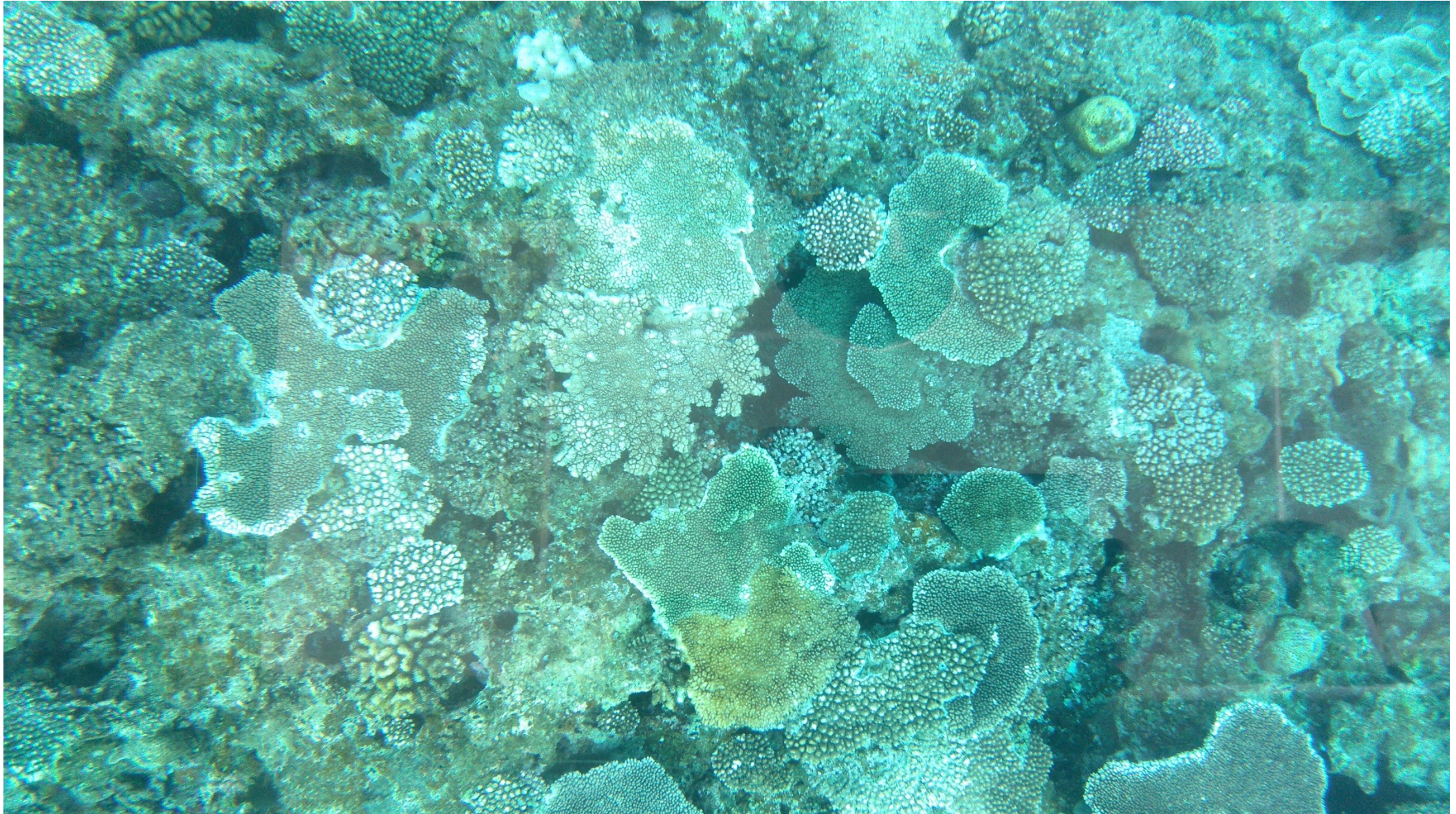
沖縄県議会議会与党会派の議員さんたちと



11月17日・山内スエコ事務所にて



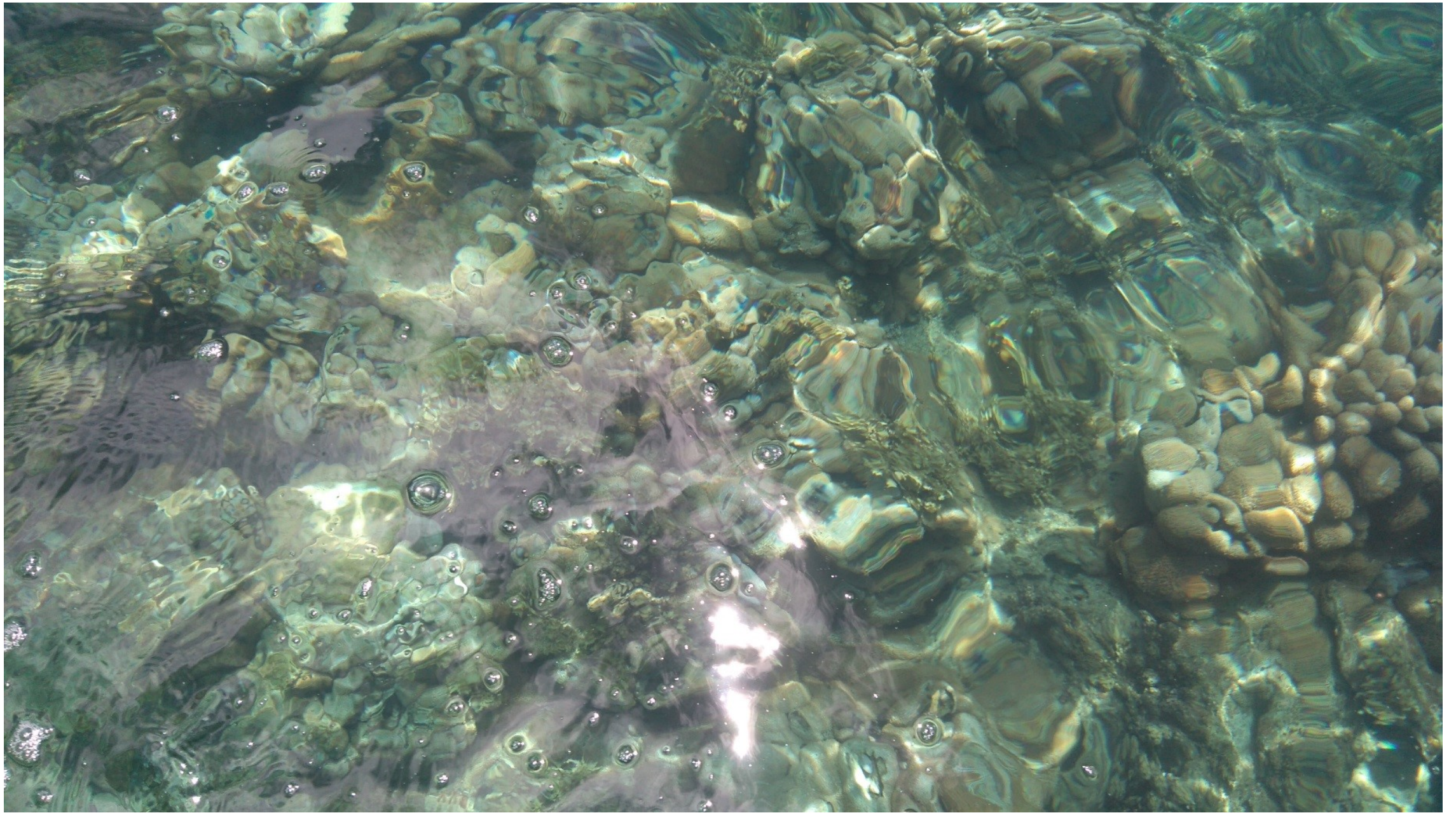
大浦湾・11月14日



6月29日、抗議船から（工事現場から300m）









どの故郷にも戦争に使う土砂は
一粒もない！

本土から、辺野古の海に投入する土砂の
搬出を止めるために、西日本ばかりでなく
「本土からの土砂搬出」として全国の運動
として展開していきたい！

沖縄県土砂条例の改正強化を！